

すがじんじゃほんでん
87. 寿賀神社本殿

■ 指定日

昭和62年12月25日

■ 種別

有形文化財 建造物

■ 年代

江戸時代

■ 所在地

朝来市山東町柊木

■ 所有者

柊木区



■ 内容

寿賀神社は柊木の氏神社で、須佐之男命を祀る。現在の本殿は、棟札により寛文13年(1673)に淡路国津名郡浦村の大工北条播磨守時定によって建てられたことが知られる。

桁行三間、梁行一間の小規模な三間社であるが、身舎組物を出三斗とするなど比較的複雑な意匠で構成されている。また軒唐破風・千鳥破風をそなえ、近世神社建築の特徴をよく表している。大工・北条播磨守時定は主馬之助とも称し、但馬・丹後・西丹波にかけていくつかの作品を残した。17世紀後半期の注目すべき番匠大工の一人である。主馬之助の作風は、底部の虹梁木鼻の「ばく」の彫刻や墓股の形によく現われている。妻飾の大瓶束の胴に絵様らしきものを施しているのも珍しい。

建立当初から覆屋を設けていたようで、遺存状態は良好である。建立当初の形式が、ほぼそのまま残されている。